

司法から見た 虐待防止法と性的虐待 について



2013. 8. 28

東京アドヴォカシー法律事務所

弁護士 杉浦 ひとみ

考えたい項目

- 1 何が虐待か
- 2 虐待が起こる人間関係
～ どんな人との間で虐待が起こりやすいか
- 3 自分が虐待しないために
～ 虐待と非虐待の区別
- 4 虐待を発見したときどうするか
- 5 虐待の被害者の受ける傷(身体的・精神的)
- 6 虐待予防の対策



虐待とは

- ・自分の保護下にある
者(ヒト、動物等)に対し、
- ・長期間にわたって暴力をふるったり、
- ・日常的にいやがらせや無視をする
などの行為を行うこと



虐待の類型

- ①身体的虐待
- ②ネグレクト
- ③心理的虐待
- ④性的虐待
- ⑤経済的虐待

そのほか 教育虐待
パワーハラスメント など



虐待防止に関する法律は どのようなものがあるか

- 2011.6.24 障害者虐待防止法

障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律について [障害者基本法第2条第1号に規定する障害者]

- 2005.11.9 高齢者虐待防止法

高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 [高齢者とは、65歳以上の者]

- 2001.4.13 DV法

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律

- 2000.5.24 児童虐待防止法

児童虐待の防止等に関する法律 [18歳に満たない者]



なぜ虐待が起こるのか

A 知ってやっている

- ① 障害者は虐待されてもいい・仕方ない
- ② いけないとわかっているが虐待する
(虐待せずにやろうとおもえばできる)

B 知らなくてやっている

- ① その行為が虐待ではないと思っている
- ② そうするほかないと思っている
(例: たたかないと静かにさせられない)



障害者虐待防止法とは

正式名称

「障害者虐待の防止、
障害者の養護者に対する支援等
に関する法律」



立法目的

- 障害者に対する虐待が
- 障害者の尊厳を害するものであり、
- 障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重要であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、
- 障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。



客体 は「障害者」

身体・知的・精神障害その他の心身の機能の障害がある者であって、

障害及び社会的障壁により継続的に日常生活・社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう

Q 障害者手帳を持っていることは要件ですか



障害者虐待の類型は

- ① 身体的虐待
- ② ネグレクト
- ③ 心理的虐待
- ④ 性的虐待
- ⑤ 経済的虐待



障害者虐待法での主体は

- ①養護者による障害者虐待、
- ②障害者福祉施設従事者等による障害者虐待、
- ③使用者による障害者虐待をいう。



障害ある未成年者について考える

- ア 自宅で親と暮らす16才の子どもに親が虐待
- イ 自宅で親と暮らす18才の子どもに親が虐待
- ウ 自宅で親と暮らす18才の子どもが勤めている職場の
雇い主が虐待
- エ 養護施設で暮らす16才の子どもに施設職員が虐待



自分が虐待をしないようにする

虐待か虐待でないかの区別を考える

Q 羽交い締めにする

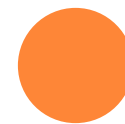
- 気に入らない子だから羽交い締めにする
- 他の子に体当たりしてけがをさせそうなので羽交い締めにした

Q 持っているお金を取り上げる

- ローンで苦しいので子どもが持っているお金を取り上げた
- 学校にお年玉を持ってきて友だちに配っているのでそのお金を取り上げた

Q 給食を与えない

- いつもこぼすから給食を与えない
- アレルギーのためその日の給食は与えない



虐待とはいえないとき

1 権利(利益)と権利(利益)がぶつかる時

- ① それが、他人の権利や利益を侵害しない
ために仕方ないとき
- ② それが本人の権利や利益のために仕方ない
とき

2 そのために必要十分な程度・範囲で



弱い障害者のいる現場に就職し、
「いじめてやるぞ」というひとはいない

【虐待に対して意識が鈍磨する要因】

- ① 障害者に対し思うようにいかず疲弊する
- ② 疲弊や無力感で目の前の弱者にあたる
- ③ 力で押さえることで成功した
- ④ 障害者に虐待をしても大丈夫と思う
言わない
言えない
言っても証拠にならない



虐待をみつけたとき どうするか

- ① 直接注意する
- ② 管理職に注意してほしいと報告する
- ③ 障害者虐待防止センターに通報する



通 報

障害者虐待を防止するためには、早期発見・早期対応が重要。障害者虐待と思われる事柄を見聞きしたら、市町村等の窓口に相談。

○虐待を受けたと思われる方が障害者手帳を持っているかは関係ありません。

○通報したことを理由に不利益な取扱いを受けることはありません(虚偽・過失の場合を除く)。



訴えられた窓口では

同じ施設の中で、障害者に対してことあるごとに手を上げる職員がいますが、ずいぶん先輩なので注意できません。

でも、相手がけがをしたりしたらと思うと心配です。

どこに行けばどんな対応をしてくれるのでしょうか。



通報だけでは被害者は救済されない ～ 重要なこと

知的障害者対象の福祉施設で、職員Aさんの同僚のBさんが、利用者の顔を殴りつけていました。

利用者さんを守るにはどうしたらいいのでしょうか？

Bさんが、「そんなことはしていません。見間違いです。」
といったらどうなりますか？

Aさんの言うことだけを信じますか
Bさんの言うことだけを信じますか



あなたがAさんから通報をうけたらどうしますか

- 「何か証拠がありますか？」
- どんな証拠が挙げられますか？
 - ・目撃者
 - ・赤化した顔の写真・診断書
 - ・加害者のやりましたと認める書面
 - ・被害者の話



例えば性被害のとき

捨ててしまいたいところですが、
重要な証拠を保存することがとても重要です

- 精液など体液の保存
体を洗うより前に、病院へ
衣類は捨てずに保存
- 傷の存在
受診してカルテに残してもらおう

.



- 被害後、性器の周囲をぬぐったティッシュはそのまま捨てずに紙袋に入れます。
- 被害者は被害当時の衣服のまま着替えを持って、すぐに警察に通報した後に、産婦人科を受診して膣内の精液の採取や妊娠検査、感染症の検査や採血を受け、外傷は写真を、骨折はX線撮影を撮ります。
- 膣内では7日間くらいは精液は残っていると言われます。
- 被害時の衣服は丁寧に脱いで紙袋に入れ、被害者の爪の内側に残った加害者の皮膚片等は取り出して紙袋に入れ、すべてを冷蔵庫に保存します。
- ビニール袋だと湿気がこもって中身が腐敗してしまいます。ティッシュや衣服、被害者の身体に付着している加害者の精液や血液、唾液、皮膚片や体毛から、警察ではDNA鑑定によって加害者を特定することが可能です。



被害について

- ・体のけがは時間がたつと治りますが、
「心の傷」

がなかなか治らず、生活自体をも壊してしまふことがあります。

- ・心の傷は
一定の要件を満たすときには、
PTSD(心的外傷後ストレス障害)と診断されることがあります。



PTSDの症状

- 以下の**3**つの症状が、**PTSD**と診断するための基本的症状
 - これらの症状が、危うく死ぬまたは重症を負うような出来事の後、**1ヶ月以上**持続している場合には**PTSD**と診断されます。
- ①精神的不安定による不安、不眠などの過覚醒症状。
 - ②トラウマの原因になった障害、関連する事物に対しての回避傾向。
 - ③事故・事件・犯罪の目撃体験等の一部や、全体に関わる追体験(フラッシュバック)



- 患者が強い衝撃を受けると、精神機能はショック状態に陥り、パニックを起こす場合がある。そのため、その機能の一部を麻痺させることで一時的に現状に適応させようとする。そのため、事件前後の記憶の想起の回避・忘却する傾向、幸福感の喪失、感情鈍麻、物事に対する興味・関心の減退、建設的な未来像の喪失、身体性障害、身体運動性障害などが見られる。特に被虐待児には感情の麻痺などの症状が多く見られる。

虐待が生じないようにするために

- 1 暴力・暴言に頼らない指導の仕方について学ぶ
- 2 他人の目が届くようにする
物理的
システムの
- 3 障害者からの聞き取り技法の確立
- 4 そのほかのアイデア

